

Project	地域協働専攻 地域環境科学グループ
	C03 地域における音環境の調査と提案

メンバー	[学 生] 黒田 怜美 / 武田 康汰 / 十倉 昂輝 / 渡邊 真太郎 / 寺島 諒一 / 佐々木 聖 [担当教員] 今野 英明
------	--

【背景】

コロナ禍が落ち着いてきた現在、函館市の観光客数は概ね回復傾向にある。しかし、イベントの規模はコロナ前と比べ縮小している。昨年度までは観光客数減少の観点から主に観光地や観光施設の音に着目していたが、今年度はイベントに焦点を当て函館周辺ならではの祭りやイベントの音に着目した。

【目的】

函館市は観光地としての魅力は大いにあるが、祭りやイベント目的で訪れる観光客は少ない。そこで、観光地に加え函館特有のイベントの音を聞いてもらうことで、イベントの開催に合わせた観光意欲を向上させた。また、イベントを見知っている地域住民においても、聞き慣れていないであろう音の観点からイベントを紹介することで、参加意欲を高める。

【概要】

函館市周辺の祭りやイベントで収録した音を、Webサイト「Hakodate Sound Map 2023」に掲載した。またサイトの宣伝のため、リーフレットとポスターを作成し、函館市周辺の施設に設置した。多くの人にサイトを認知してもらい、音を聴いてもらうために、リーフレットとポスターにはサイトのQRコードとURLを掲載した。

【プロセスと成果】

音源収録は、立体音響での収録が可能な「ZOOM H3-VR」という機材を用いて行った。昨年度までは函館競馬場やお賽銭の音などもあったが、今年度は特に函館近郊の祭りの音（函館港まつり、江差姥神大宮渡御祭など）を収録した。収録した音源は「Audacity」「ZOOM Ambisonics Player」というアプリを用いて、聞き手が引き込まれるような音の立体感を意識しながら、音源の長さを調節したり、よりよい音を選別したりするなどの編集をした。花火が上がる祭りがいくつかあり、音の内容が重複しないようにそれぞれの祭りの音を採集するよう努めた。Webサイトには前期から録音していた函館各地の音を載せた。Sound Mapには、函館市電の経路やイベントに関連するようなアイコンを記したり、録音した音についての情報やコメントを載せたりした。

また、実際に函館に来た方向けに手に取って観光してもらえるよう、リーフレットの表面には市内の観光地である赤レンガ倉庫と五稜郭の写真を載せ、背景には地域プロジェクトの概要やSound MapのサイトにアクセスすることができるQRコードを記載し、函館の景観のよさについても伝わるような構成を心がけた。裏面には、Webサイトで使用しているものと同じのマップと、録音した音を聞くことができる場所の説明を載せた。マップについても場所と市電の路線図を併記したり、観光地を連想させるようなアイコンを使用したりすることで、見てもらう方にわかりやすいように努めた。



【作成した Web サイト】

<https://www.hakodatesound.com/>



【作成したポスター】

【総括と反省・今後の課題】

私たちは、新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた観光客数が回復しつつある現状に目をつけ、函館の魅力を発信する事を目的として活動を行った。また、例年の音の地域プロジェクトとの差別化として、特に函館近郊の祭りの音を採集し、地域住民の方にも函館の魅力を再発見してもらえるように努めた。

前期は、函館各地の祭りの音を録音し、その録音した音の編集作業を行った。祭りの時期が集中していたため慌ただしい日程もあったが分担し、なるべく多くの祭りの音を採集した。

後期は、音の録音・編集作業に加え、リーフレットの作成を役割分担して行った。リーフレットは函館市内の計21か所に設置させていただいた。様々な施設へのアポ取りからリーフレットの設置まで丁寧かつスムーズにやりとりをする様子が見られた。

反省点としては、今年度のリーフレットとWebサイトの作成や配布・公開時期が例年よりも遅れてしまい、リーフレットの持ち帰り部数が昨年度に比べて増えたものの、アクセス数は減少してしまった。アンケートのURLをWebサイトの下部に配置していたが、アクセス数と比べると収集数がかなり少なかった。

今後の課題は、リーフレットとWebサイトの配布・公開時期を早めにして、十分な期間の宣伝が必要だと考える。宣伝方法についてはInstagramやX(旧Twitter)などのSNSを活用したり、リーフレットの配置場所にてPRしたりするなどの検討をする必要がある。

【地域からの評価】

本プロジェクトではリーフレットを配布した施設のいくつかの施設からご感想をいただいた。北斗市役所職員からは、「普段は音楽を聴いていることが多いので、たまにはイヤホンを外して日常の音にも耳を傾けてみようという気持ちになった。」、「ハリストス正教会について、画像と音のマッチが良かったです。」といったご感想をいただいた。

また、函館市役所職員からは「イベントのページで音だけでなく画像が自動で切り替わるようになっているため、イベントの臨場感や雰囲気を感じることができた。」、「江差姥神大神宮渡御祭について、祇園囃子の音が特徴的で実際に聞きに行ってみたく感じました。」といったご感想をいただいた。

Webサイトに記載したアンケート調査においては「音に注目してみようと思った。」といったご感想をいただいた。

地域プロジェクトの成果発表においても、本プロジェクトに対して多くの意見が寄せられた。「『視覚』ではなく、『聴覚』という観点からの発信で面白い」、「Sound Mapやリーフレットが素晴らしい」といったご意見をいただいた。「音」と「観光」の関係性に注目し、地域の魅力を発信するという本プロジェクトはかなり興味を引けたようだ。

〈データ〉

・リーフレット持ち帰り部数：193部/345部

(2月12日現在)

・Webサイトのアクセス数：148件

(12月11日～2月12日)

【その他】

年間スケジュール

〈4月〉プロジェクトの構想決め

〈5月〉録音機器の操作確認

〈5月～12月〉音源収録

〈5月～1月〉Webサイト制作(12月11日公開)

〈8月〉中間発表会

〈11月〉リーフレット&ポスター制作

〈12月〉リーフレット&ポスター配布

〈1月〉最終成果発表会の準備

〈2月〉最終成果発表会



【江差姥神大神宮渡御祭】



【音源収録の様子】

【謝辞】

本プロジェクトの活動について、音の収録やリーフレットの配布にご協力をいただいた函館市近郊各施設の皆様をはじめ、各イベント運営の皆様、地域の皆様には深く感謝申し上げます。様々な方のご協力の下プロジェクトを進めることができました。本当にありがとうございました。

